

部会委員からのご意見（まとめ）

第 2 回協働のまちづくり検討部会でのご意見

No.	意 見	委 員	計 画（手法・取組）	柱
1	・リーダー育成 ・年齢、性別問わず、やりたい人・できる人が活躍できる環境（人づくり）が必要	村井委員	・まちづくり市民集会等の開催 ・協働に関する出前講座の実施	・人づくりと推進体制 ・活動基盤の整備 ・協働の仕組みづくり
2	地域の団体が育ち、取組が進むのは、組織のトップ次第という部分がある。	岩崎委員	・人材育成研修会の開催 ・協働に関する職員研修の実施	
3	・人育てが重要	岡本委員	・情報発信機能及び体制の強化	
4	・まちづくりに参加する人を増やすことが重要	原田委員	・情報共有機会（交流会等）の創出	
5	・若者世代が重要 ・世代交代が課題	宮本委員	・行政情報の積極的な提供と説明	
6	協働の概念を理解するための研修を実施する必要がある。（行政職員、市民）	長畑部会長	・市民活動情報の発信・共有	
7	市民も行政も意識改革が必要	委 員	・参画機会の情報提供	
8	まちづくりコーディネーターが活躍できるようにコーディネーターへの研修等を実施してほしい。	村井委員		
9	情報の地域差があってはいけない。各地域の情報（組織や取組）がわかる仕組みがあると良い。	岡本委員		
10	積極的に情報提供し、共有することが重要	長畑部会長		
11	新しい組織やグループを立ち上げる際の（資金的、事務的）支援が必要	岡本委員	・まちづくり活動団体の設立支援（財政的・事務的支援） ・補助金助成金情報の提供	活動基盤の整備
12	人と人をつなぐ交流の場が必要	岩崎委員	・情報共有機会の創出（交流会等）	
13	・地域住民の声を聞くことが大切 ・住民アンケート（中学生以上）の実施 ・ちゃぶ台ミーティング	長畑部会長	・地域協議会との連携 ・地域円卓会議の開催 ・協働アンケートの実施 ・パブリックコメント	協働の仕組みづくり
14	多様な主体の集合体（協働組織）、共通の課題認識を持てるような仕組みづくりが必要	長畑部会長	・地区まちづくり推進委員会の設立支援 ・地域協議会との連携 ・地域円卓会議の開催	

意見書によるご意見

1 施策

No.	意 見	委 員
1	・地域の課題解決や地区の地域性・個性を生かした活動 ・持続可能なまちづくり活動	岩崎委員
2	・人づくり（育成）担い手づくり ・活動のための環境づくり ・参画しやすい仕組みづくり ・情報と共有の活用 ・地区のしくみづくり	宮本委員
3	全体的な表現としては、大きな効果を求めるものではなく、また、難しい言葉の羅列でもなく、基本的には背伸びしない取組や実現可能な役割分担という感じが必要では？	石田委員

2 取組

No.	意 見	委 員	計 画（手法・取組）	柱
1	人材育成 ・地域リーダーの育成や発掘、協働のまちづくりに関わる関係職員の研修（学習）	岩崎委員	・まちづくり市民集会の開催 ・協働に関する出前講座の開催 ・人材育成研修会の開催 ・協働に関する職員研修の実施	人 づ く り と 推 進 体 制
2	・地区を良くしようとする想いの意識づくりの取組み	宮本委員	・条例及び計画の周知、学習 ・情報発信機能及び体制の強化	
3	情報発信 ・協働のまちづくりに関する理解を深め、地域活動情報の発信・共有の充実	岩崎委員	・市民活動情報の発信・共有 ・情報共有機会（交流会等）の創出 ・実践紹介集による活動紹介	
4	・センターだより ホームページ立上げをお願いします	原田委員		
5	世代間交流の推進と賑わいの創出 ・若者世代の働きかけとバックアップ体制	岩崎委員	・社会教育の手法を活かした人材育成 ・まちづくり活動団体の設立支援	・活動基盤の整備 ・人づくりと推進体制
6	次世代を担う子どもの育成と若者世代が実践できる取り組みと連携	宮本委員		
7	・組織を立ち上げるための支援	宮本委員	・まちづくり活動団体の活動・設立支援	
8	関係人口との交流 ・地域と関わる関係人口の創出	岩崎委員	・活動資金の確保、充実 ・情報発信機能及び体制の強化	・地域自治の強化 ・人づくりと推進体制
9	市民と市は共通の課題と認識を持てる取組み	宮本委員	・地域協議会との連携 ・まちづくり市民集会等の開催	組 み づ く り ・協働の仕組みづくり
10	市民の声が届き、一体となれる取組み	宮本委員	・地域円卓会議の開催	

11	昨年のフォーラムでは、『「自由に使えるお金」と「人材（地域、行政共に）そして調整役に行政職員の貼り付けが必要」との発言があった。私は、特に行政職員については、「地域課題等の発見、受け取りに始まり、調査・研究されたものが行動計画・構想・政策目標として纏められ（アジェンダ・セッティング）ることに資するものであって欲しい。これは、職員の地域担当制の確実な実施で可能であると思う。	石田委員	・活動資金の確保、充実 ・地域協議会との連携 ・地域円卓会議の開催 ・各部局に協働を推進する職員を指定 ・協働に関する職員研修の実施	・人づくりと推進体制 ・地域自治の強化 ・協働の仕組みづくり
12	・元気なふるさとづくり 後野自治公民館と共同で事業実施（役員も兼務が多い） 昨年、今年とコロナ禍防止のため永年続く下記の事業は中止しました。 運動会（6月）、法要と盆踊り（8月）、敬老会（9月）、文化祭（11月） 実施…防災講習会、健康診断、草刈り、溝そうじ、サロン グループ…卓球、グランドゴルフ、カラオケ、舞踊、神楽 備品補充…テント、卓球台、音響設備 課題：子どもの減少、高齢者世帯の増、農地の荒廃など	虫谷委員	・活動資金の確保、充実 ・補助金助成金情報の提供 ・市民活動情報の発信・共有	・地域自治の強化 ・活動基盤の整備
13	・地域課題に関心を持つ ・空店舗、休耕地の利用 ・県立大学生さんとの交流を増す 具体的な私案 ・浜田の自然、資源を生かしたもの（市民磯釣り大会、浜田水産まつり、新浜田八景の選出募集、みこしの勢揃い） ・その他：タイブレーク野球（1イニング）、対抗綱引き、長縄とび大会、ハイブリットオーケストラ演奏会を海に見えるステージ	虫谷委員	・参画機会の情報提供 ・活動資金の確保、充実	・協働の仕組みづくり ・地域自治の強化

14	1、関係人口と UI ターンの促進 すべては黒沢エリア振興計画を策定するにあたり、中山間研究センター様のご支援もいただき地域課題、現在、将来を円卓会議で話し合いました、その中でふるさと出身者とまずつながる そのための施策として、廃校になった、三隅南小、黒沢中学校の卒業生とふるさとがつながる 市の課題解決事業として、支援をいただきました、まずお墓参りや、帰省に合わせてお盆前に計画3年前です、まず黒沢中学校卒業生220名参加、体育館で交流会、センターに泊まる方、親戚に行かれる方 夜はそれぞれ思い出にひたり、交流されました。石見神楽で楽しめたり思い出を作られました。 三隅南小卒業OBの方、60名出席されました、卒業記念の思い出の箱も開けられて感慨深いものがあります、時の流れを感じます。 いいね、黒沢。JP これはJPはジョイント、ピープルと言います。 黒沢の自分か生まれ育った、黒沢のお米を、参加された方々とつながり、センター便り10名にお送りしています、ホームページ黒沢ベースもありますが、ネットでは苦手な方もおられますのでお便りも喜ばれます。 是非黒沢のお米食べて、ふるさと応援してくださいと、お便り出して50名に約400kg 精米したてをお送りするため、市内協力企業のキヌヤでも販売しています 益田市、浜田市にも出身者の方おられ、喜ばれています、980KG 販売して好評です まちづくり委員会、産業振興部会が袋詰め納品も実施しています	齋藤委員	・活動資金の確保、充実 ・補助金助成金情報の提供 ・市民活動情報の発信・共有	
15	2、公民館時代に将来地域の一人暮らしのお年寄り、見守りもかねて、公民館の調理場を仕出しもできる、イベントに対応できる、保健所の営業許可もいただきまして、許可登録名は地域を助けるという意味で、ちい助としました、いよいよ今期6月より健康福祉部、まちづくり委員会として、福祉弁当、配食を開始しました。徐々に増えて、見守りも含めてスタートしました この取り組みがさらに進み、地域の	齋藤委員		・地域自治の強化 ・活動基盤の整備

	絆が深まることを進めていきたいと 思います。			
16	まちづくり推進にあたり、交流の場 を作る取組み	宮本委員	・情報共有機会の創出(交流会等)	・協働の 仕組みづ くり

3 進捗状況の評価、検証

No.	意 見	委 員	計 画（手法・取組）	柱
1	それぞれ共有した段階での評価を アンケートする	宮本委員	・協働アンケートの実施	・協働の 仕組みづ くり
2	他市の例を参照するのはかまわな いが、浜田市の「らしさ」を共有す るためにも、また進捗状況や検証を し易くするためにも「ソーシャル・ キャピタル」という概念を持つ必要 はないか？	石田委員		
3	交流の場を作り、評価をし見直す	宮本委員	・まちづくり市民集会の開催 ・情報共有機会の創出(交流会等) ・協働のまちづくり検討部会	・人 づくりと推進体制 ・活動基盤の整備
4	評価検証で、効果的、持続的、自力 的な仕組づくりが次につながって いきます	宮本委員	・「効果的」「持続的」「自力的」 の観点からも評価検証を行 う。	—
5	そもそも論になるが、浜田市がど う状況にあるのか？また、市民は 何ができると考えているのか？ま た、行うにあたっての課題をどう考 えているのか？「らしさ」を訴える 「現状把握」ができているようで きていない。積み上げの基礎となる データ（東近江市例では P7 のアン ケート結果）が必要。前項の例をも ちいれば、東近江市の例では P17 「市民参画行動の程度の自己評価 の把握」をどうするのか？	石田委員	・協働のまちづくり推進条例策 定時の検討を反映し条例の前 文を改めて掲載 ・市民と行政の役割分担（できる こと、できないこと）について は、課題や取組に応じて、話し 合いを重ね、お互いに確認を することが重要 ・協働アンケートの実施	—

4 その他

No.	意 見	委 員	計 画（手法・取組）	柱
1	浜田市全体の地区、まちづくりが、人口に関係なく、それぞれがお互いが自分の手でまちづくりの担い手となる気持ちと、将来におけるまちづくりを、子供から高齢者まで笑顔のある組織づくりをするために又人口減少に向けての策に向けての取組みを一体となって考えるためにとても重要と思います。	宮本委員	・まちづくり市民集会の開催 ・条例及び計画の周知、学習 ・協働に関する出前講座実施	・人づくりと推進体制
2	「ソーシャル・キャピタル」については、例（「ソーシャル・キャピタル形式とまちづくり意識の関連」）を添付した。是非熟読願いたい。	石田委員	別紙参照	—
3	前回配布資料 3 の比較表中浜田市欄「2 現状と課題」を基礎データの無いままに、どう記述するのか？また、本市の「協働のまちづくり」が単なる他市例のトレースに終わるのか、そうではなくて浜田那賀自治区方式を経た次のステージと捉えるのか、とても大切な部分であると思う。	石田委員	・アンケートの実施 ・「協働のまちづくり」が単なる他市例のトレースに終わるのか、そうではなくて浜田那賀自治区方式を経た次のステージ	—
4	地域の法は根付いたものでなければならぬ。「協働のまちづくり」に関する認識や問題解決が市民と共有できるよう不断の努力をなされたい。	石田委員	「協働のまちづくり」に関する認識や問題解決が市民と共有できるよう継続的に取り組む。	—